教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 建築学科　　資格： 准教授　　氏名： 宮野　順子

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画　建築設計	高齢者グループリビング,コーポラティブハウジング
学位	最終学歴
博士(工学)	京都大学博士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.フィールドワークの代替となる動画の作成	2020年10月24日～2020年11月27日	コロナ禍により、敷地見学および参考事例見学の代替となる動画を作成した。実際に現地を歩きながら、設計を進める上で気をつけるべき事柄を説明した。現地見学の空気感までを伝えることができるよう、発着駅からの街の様子なども含めて撮影した。
2.実務経験の講義へのフィードバック	2020年4月1日～現在	担当する講義において、教員の実務経験に基づいたエピソードを挿入するようにする。女性という立場で設計、あるいは、建築現場で設計監理を行うことが、学生にとって身近に感じられ、また、自分の将来の姿としてイメージできるようにすることが狙いである。
3.授業時間中間でのアイスブレイク実施	2020年4月1日～現在	知識伝達を目的にしたスライドによる一方的な講義のなかでも、学生の集中力を保ち、講義内容に興味をもたせるために、授業時間中間時点で5分程度のアイスブレイクと称した学生参加型の時間を設ける。(身近にある建物の写真をアップして、構造を推察させる、学生が工事現場の写真を解説するなど。)
4.補足動画の作成	2020年4月1日～現在	小テストで回答率の悪かった箇所、振り返りシートで確認できた未理解箇所について、補足動画を作成し、期間を区切り、受講生対象に公開している。
5.振り返りシートの活用	2020年4月1日～現在	各回の授業の最後に、1.　今日の学びの中で印象に残ったことや学んだこと、2.　授業についてよかった点や改善してほしい点などを問うアンケートを実施。次回の授業で、すべての意見を列記し、主だった意見を紹介。学生からは、他の学生が考えていることがわかるのでよい、という反応を得ている。
6.講義における小テストの実施	2020年4月1日～現在	講義において、担当期間の途中で小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックすることで、継続的な学習を促すとともに途中段階での知識の定着を図る。
7.動作を伴う演習、気づきをうながす講義	2014年10月1日～2019年3月31日	一方的に話を行うスタイルではなく、受講者の内発的な気づきをもたらす工夫を行ってきた。 　具体的には、車椅子での住宅再現空間の走行を始めとする、メジャーをもって建物の寸法を測るなどの演習のほか、質問形式で受講生に考え、周囲と話あう時間を設け、発表してもらうなどのワークショップ形式を取り入れるなどである。
2 作成した教科書、教材		
1.武庫川女子大学建築学科4年　2022年度「建築設計演習Ⅴ」課題３の課題説明書	2022年6月～2022年07月	建築設計演習Ⅴ　課題3「水辺の楽園」の課題資料の作成
2.武庫川女子大学建築学科2年　2022年度「建築設計演習Ⅰ　」課題２の課題説明書	2022年5月～2022年06月	建築設計演習Ⅰ　課題2「家族のための家」の課題資料の作成
3.武庫川女子大学建築学科4年　2022年度「建築設計演習Ⅴ」課題１の課題説明書	2022年4月～2022年05月	建築設計演習Ⅴ　課題1「老人福祉施設」の課題資料の作成
4.武庫川女子大学建築学科3年　2021年度「建築設計演習Ⅳ」課題２の課題説明書	2021年10月～2021年11月	建築設計演習Ⅳ　課題2「集合住宅」の課題資料の作成
5.武庫川女子大学建築学科4年　2021年度「建築設計演習Ⅴ」課題３の課題説明書	2021年6月～2021年07月	建築設計演習Ⅴ　課題3「水辺の楽園」の課題資料の作成
6.武庫川女子大学建築学科2年　2021年度「建築設計演習Ⅰ　」課題２の課題説明書	2021年5月～2022年06月	建築設計演習Ⅰ　課題2「家族のための家」の課題資料の作成
7.武庫川女子大学建築学科3年　2020年度「建築設計演	2020年10月～2020年11月	建築設計演習Ⅳ　課題2「集合住宅」の課題資料の作成

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
習Ⅳ」課題２の課題説明書 8.「一般建築構造Ｉ」補足動画作成 9.兵庫県チェックアンドアドバイス制度にもとづく建築士アドバイザーに対するチェックポイント集の作成	 2020年5月1日 2016年03月31日	 武庫川女子大学景観建築学科1年　2020年度　「一般建築構造Ｉ」　部材内部の応力についての理解を深めるために積み木を用いた動画、鋼材の破断の様子をわかりやすく伝えるため、パスタを用いた動画を作成した。 兵庫県福祉のまちづくり条例における施設点検制度(チェックアンドアドバイス制度)では、登録している建築士アドバイザーへの教育の一環として、よく指摘があるポイントについて、わかりやすく説明をおこなった。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.色彩検定　2級 2.インテリアコーディネーター 3.一級建築士 4.福祉住環境コーディネーター2級	2016年7月19日 2008年4月1日 2005年4月20日 2002年11月24日	登録　161000147 登録番号080421A 登録319539号 証書番号09-2-03392
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.高齢者の共同居住に適合した住宅の運営手法に関する研究	単	2016年7月25日	京都大学	親子や配偶関係といった強い紐帯を有する個人が減少する社会背景において、共同居住が個人の社会関係を豊かにするために有効であると考え、特に高齢者に着目してその運営手法を検討した。 共同居住で営まれる生活実態とその行為が発生する経緯を把握し、共同居住が成立するための背景因子は何かを考察した。
3 学術論文				
1.高齢者グループリビングの居住者が考える 認知症発症時における居住限界と相互扶助の実態(査読付)	単	2022年12月6日	日本建築学会住宅系研究報告会論文集17（投稿中）	10人程度の高齢者が共同居住を行う高齢者グループリビング(EGL)という住まい方において、居住者の視点から、特に認知症発症時に着目して、1）居住者の居住継続意向は、心身機能の低下におけるどの段階までか、そして、2)EGL の居住限界はどこかである。3）居住継続を支えているものは何か　4）居住限界を抱えながらも、あえてEGL に住む価値はどこにあるのか、つまり、EGL の最大の特徴である居住者同士の交流があるのかという研究課題をインタビュー調査の分析から明らかにした。
2.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における次世代所有者の動向 ー同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通して ー(査読付)	共	2021年12月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集16	一連のシリーズとして同一地域・同年代・同規模で建設されたコーポラティブ住宅群「都住創」における所有者の変遷と管理運営過程に関する研究の続報である。次世代へのインタビュー調査を進め、徐々に世代交代が進み、次世代も第一世代の熱量とは異なるものの、愛着を持って都住創に居住し、管理に関わっている様子を明らかにした。 共著者：宮野順子　荒木公樹　論文全般を担当
3.Small-scale shared housing projects outside public	単	2021年2月	Intercultural Understanding 10	日本の高齢者の住まいを概観説明したのち、先駆的な試みである高齢者グループリビング(elderly shared housing) 11事例について、運営主体の規模、平均居住年数、平均要介護度、月ごとの利用費用

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
schemes for the elderly in Japan: A comparative study of multiple projects(査読付)				等を比較した。
4.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における運営履歴の解明(査読付)	共	2020年3月	2019年度 「住総研研究論文集・実践研究報告集」 No. 46 (46) 155-166 2020年3月	一連のシリーズとして同一地域・同年代・同規模で建設されたコーポラティブ住宅群「都住創」における所有者の変遷と管理運営過程について,土地建物登記簿調査とインタビュー調査を用いて明らかにした。その結果,第一世代の所有者は経年とともに減少していくものの,その程度が比較的緩慢な住宅と急激な住宅があることがわかった。親密なコミュニティを形成した第一世代の所有者が減少しても,管理に積極的な次世代の担い手が見つかり,理念の継承ができている住宅が存在する一方,第一世代の所有者の割合が高く,熱心に維持管理をおこなっているものの,高齢化し,次世代への継承が進んでいない住宅の存在も明らかになった。 住総研の研究助成(2017)を受けた報告論文となる。 共著者：宮野順子　荒木公樹　論文全般を担当
5.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における 運営履歴の解明 ー同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通して(2)ー(査読付)	共	2019年12月	日本建築学会住宅系論文報告会論文集14 pp.141-148	一連のシリーズとして同一地域・同年代・同規模で建設された他の「都住創」における運営過程を明らかにすることが研究目的である。管理体制と管理の状況、新規居住者への面接実施と理念継承について扱った。
6.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における 所有者・利用者変遷の解明 ー同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通してー(査読付)	共	2018年11月	日本建築学会住宅系論文報告会論文集13 pp.209-214	建設後時間が経過したコーポラティブ集合住宅の状態を把握することを目的にしている。研究対象は「都住創」シリーズである。これは大阪都心部を中心に20棟存在する。7戸～19戸と比較的小規模な住戸で構成される。築後16～40年経過している。土地建物登記簿調査より、各住宅の所有権の移転を把握し、住宅地図の名簿との照合をおこなった。 著作者：宮野 順子,荒木公樹　論文全体の執筆を担当
7.高齢者グループリビングの運営実態 -北海道北見市にある「じゅげむ館きたみ」の居住者履歴を通して(査読付)	単	2017年12月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集12 pp243-248	高齢者等居住安定化事業の補助金を得て整備された高齢者の共同居住住宅の運営実態について、居住者履歴より分析を行った。
8.The reality and signification of Access audit based on user participation A study through ”Check & Advise System” in Hyogo Prefecture, Japan (査読付)	共	2016年12月	第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議2016in名古屋	障害などの当事者と施設管理者が共同で施設のバリアフリーチェックを行う兵庫県チェックアンドアドバイス制度についての分析を行った。 共著者：Junko Miyano, Hiroshi Kitagawa,Nobuyuki Mitani,Ken Namba 論文全般を担当
9.QUALITY OF LIFE RESULTING FROM THE RELATIONSHIP BETWEEN RESIDENTS IN ELDERLY GROUP LIVING -A study through management history of ‘GROUP HOUSE	単	2016年9月	Proceedings of the 11th ISAIA pp.454-459	国内で最長の運営履歴を有する高齢者グループリビングにおいて営まれた生活に焦点をあてる。居住者間の関係や生活の質について、グラウンデッドセオリーアプローチという質的研究方法を用いて分析を行なった。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
SAKURA’（査読付）				
10.小規模多機能型居宅介護サービスと連携する 高齢者の共同居住住宅の運営実態 －兵庫県相生市M の家の居住者履歴を通して-(査読付)	共	2016年9月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集11 p135-140	小規模多機能型居宅介護サービスと連携する高齢者の共同居住住宅の運営実態について、居住者履歴より分析を行った。 共著者：宮野順子 絹川麻理 高田光雄　論文全般を担当
11.高齢者グループリビングにおける居住者間関係と生活の質-「グループハウスさくら」の運営履歴を通して-(査読付)	共	2016年3月	日本建築学会計画系論文集 第81巻第724号 pp.1363-1372	国内で最長の運営履歴を有する高齢者グループリビングにおいて営まれた生活に焦点をあてる。居住者間の関係や生活の質について、グラウンデッドセオリーアプローチという質的研究方法を用いて分析する。 共著者：宮野順子　高田光雄　論文全般を担当
12.株式会社方式によるコレクティブハウジングの運営実態-居住者会議の項目分析を通じて-(査読付)	共	2015年11月	日本建築学会計画系論文集 第80巻第717号pp.2635-2644	欧米の組合所有という所有形態を模した株式会社方式という国内唯一の所有形態を採用するコレクティブハウジングについて、これまでの居住者会議の分析を通して、運営実態を明らかにする。 共著者：宮野順子　高田光雄　論文全般を担当
13.高齢者の郊外居住における居住の継続に関する研究 ―都市・福祉行政連携の現状・課題と展望	共	2015年8月	日本福祉のまちづくり学会第18回全国大会(柏大会)	難波 健,宮野,順子,北川 博巳　調査と分析の一部を担当
14.住民参加型の点検と助言に依る施設改善に関する研究-兵庫県におけるチェック&アドバイス制度を事例として-（その2）	共	2015年	日本福祉のまちづくり学会第18回全国大会(柏大会）概要集DVD	宮野 順子,難波 健,三谷 信之,北川 博巳　論文全体の執筆を担当
15.開放的な間仕切り建具により一体空間となる住宅の提案とその検証(査読なし)	共	2013年3月	都市住宅学会 「都市住宅学」第83号,pp132-137	遠藤事務所で建築設計を担当した都市機構の子育て世帯向け集合住宅について、居住者調査を通して、開放的な間仕切り壁の使われ方について調査した。 共著者：宮野順子　高田光雄　安枝英俊　論文全般を担当
16.京阪神における東日本大震災遠隔地避難者の居住支 援状況に関する調査研究(査読付)	共	2012年10月	都市住宅学会 「都市住宅学」第79号　pp132-137	遠隔地避難先として関西圏の中て？避難者か？多 い京都府・大阪府・兵庫県における居住支援の状況を明 らかにすることて？、非常時の遠隔地における居住支援のあり方と、非常時の居住支援に対応て？きる平常時の住宅供給の仕組みについて、遠隔地避難者の居住実態と居住支援に対するアンケート調査から明らかにした。 共著者：関川華　前田昌弘　宮野順子　菅井牧子 立案、考察の一部を担当
17.コレクティブ住宅の運営実態とその課題-異なる事業方式を採用する2事例の分析を通して-（査読付）	共	2011年11月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集６ pp.233-240	賃貸形式と株式会社形式というそれぞれ異なる運営形式を採用するコレクティブハウジングの事例についてその実態を把握し、特徴と課題を捉えた。 共著者：宮野順子　高田光雄　安枝英俊　論文全般を担当
18.東日本大震災後の応急居住と遠隔地避難-関西圏における居住支援の現状と位置づけ（査読付）	共	2011年11月	日本住宅会議「住宅会議」 第83巻pp.28-30	今回の東日本大震災を機に応急居住の受け皿を求めて被災地以外の場所へと避難した被災者の存在に着目し、遠隔地避難の現状とその課題を明らかにした。 共著者：関川華　前田昌弘　宮野順子　菅井牧子 立案、考察の一部を担当
19.親子・配偶関係を含まない同居の住まい方からみた住戸内共用空間に関する研究（査読付）	共	2011年8月	日本建築学会計画系論文集 第76巻第666号 pp.1363-1370	親子・配偶関係を含まない同居(シェアードハウジング)の27事例に対し、住み方調査、滞在時間調査、ヒアリング調査を行い、その実態を明らかにした。 　共用空間が使われ、その住み方が有効に機能しているのは、居住者の立場が対等なもの、非対等なものがあったが、いずれにせよ週

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				に1回以上食事を共にするなど、居住者交流が保たれているものであった。 共著者：宮野順子　高田光雄　安枝英俊　論文全般を担当
20.支援と交流を考慮した住まいの計画に関する基礎的研究-プライバシーによる空間のモデル化とその検証（査読付）	共	2010年11月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集５ pp.259-264	支援と交流を考慮した住まいとして、地域開放型サロン、デイサービス、グループホーム、高齢者賃貸住宅、オーナー住宅による複合用途の建物、および、高齢者グループリビングについて、空間構成のあり方について検討した。 共著者：宮野順子　高田光雄　安枝英俊　論文全般を担当
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.都市住宅学会関部 2021 年度通常総会記念シンポジウム	単	2021年4月17日	都市住宅学会関部	話題提供：まちと育つ一中江学童保育「にじいろがくどう」
２．学会発表				
1.高齢者グループリビングの地域ケア資源連携に関する研究	共	2022年9月	2022年度 日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集	７つの高齢者グループリビングを対象に、アンケートとインタビューから、居住者の主体性を尊重する共同居住の特徴を維持しながら、ケアが必要になったときの具体的方策を探る。 共著者　土井原奈津江 宮野順子 中西眞弓
2.高齢者グループリビングにおける居住限界と相互扶助	単	2021年10月16日	日本福祉のまちづくり学会全国大会オンライン	高齢者グループリビング　7事例の居住者を対象にしたインタビュー調査により、認知症が進行したときの居住限界について、居住者の考えを明らかにした。その中で、極めて些細な相互扶助が多数確認され、そのことが認知症が進行する中での支援となっていることが明らかになった。
3.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における運営履歴の解明 ー同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通して（3）次世代居住者の管理への関与	共	2021年9月9日	2021年度 日本建築学会大会(東海）学術講演梗概集	同年代、同規模の特質を持つ高経年コーポラティブ住宅群「都住創」シリーズ20棟について、共同建設を経験していない次世代の居住者がどのように都住創の特徴を継承しているかについて、インタビュー調査から明らかにした。 共著者：宮野 順子　和田 将吾　高岡 伸一　荒木 公樹　調査と分析の一部を担当
4.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における運営履歴の解明 同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通して（2） 次世代居住者の入居経緯	共	2021年9月7日	2021年度 日本建築学会大会(東海）学術講演梗概集	同年代、同規模の特質を持つ高経年コーポラティブ住宅群「都住創」シリーズ20棟について、共同建設を経験していない次世代の居住者の居住経緯について、アンケート調査から明らかにした。 共著者：和田 将吾　高岡 伸一　宮野 順子　荒木 公樹　調査と分析の一部を担当
5.高齢者小規模共同居住における長期居住の実態と課題	単	2020年11月15日	日本居住福祉学会 2020年度　第20回全国大会（オンライン開催）	高齢者グループリビング　7事例の運営者を対象に、一元的に有料老人ホームとみなす厚生労働省からの通知とその対応について整理した。
6.Attempts at elderly shared housing in Japan	共	2020年11月7日	ACSP2020 ANNUAL CONFERENCE	日本の高齢者の住まいを概観説明したのち、先駆的な試みである高齢者グループリビング(elderly shared housing) 11事例について、運営主体の規模、平均居住年数、平均要介護度、月ごとの利用費用等を比較した。 Junko Miyano , Natsue Doihara
7.高齢者小規模共同居住の運営履歴に関する研究 -大阪市旭区おたっしゃハウスを	単	2020年10月18日	第23回日本福祉のまちづくり学会全国大会	高齢者小規模共同居住について、大阪市旭区おたっしゃハウスを対象に事例研究を行った。特に同一所有者となる賃貸住宅と連携しながら、福祉的ニーズの高い居住者の状況に応じて運用されていることを明らかにした。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
事例として				
8.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における運営履歴の解明 同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通して(1) 管理体制と新規居住者	共	2019年9月	2019年度 日本建築学会大会(北陸) 学術講演梗概集	同年代、同規模の特質を持つ高経年コーポラティブ住宅群「都住創」シリーズ20棟について、建物登記簿、住宅地図からその居住者の変遷をおい、インタビュー調査から管理体制を明らかにした。 共著者：宮野 順子　荒木 公樹
9.認知症高齢者が生活する介護保険事業所の建築計画的課題と職員の工夫 -認知症介護実践研修受講者に対する生活環境についてのアンケートより-	共	2017年8月	日本福祉のまちづくり学会第20回記念全国大会in東海	認知症介護者実践者研修の受講者に対し、認知症の方に対する環境整備事項を質問紙調査を行った。質問紙調査と自由回答欄の分析を行った。 共著者：宮野順子　難波 健　三谷信之 北川 博巳 論文全般を担当
10.高齢者グループリビングの運営実態 - 北海道北見市にある「じゅげむ館きたみ」の居住者履歴を通して -	単	2017年8月	2017年度 日本建築学会大会(中国) 学術講演梗概集	高齢者等居住安定化事業の補助金を得て整備された高齢者の共同居住住宅の運営実態について、居住者履歴より分析を行った。
11.介護保険施設・事業所における 生活環境構築のための課題と工夫 認知症介護実践研修受講者に対する自由記述回答の分析	単	2017年6月	日本老年社会科学会第59回大会	認知症介護者実践者研修の受講者に対し、認知症の方に対する環境整備事項を質問紙調査を行った。この自由回答欄の分析を行った。 共著者：宮野順子　難波 健　三谷信之 北川 博巳 論文全般を担当
12.軽度認知障害を患う人のためにできる環境改善の小さなアイデア	共	2017年4月	第32回国際アルツハイマー病協会国際会議	認知症介護者実践者研修の受講者に対し、認知症の方に対する環境整備事項を質問紙調査を行った。この結果をカテゴリ分析し、環境整備事項の抽出を行った。 共著者：宮野順子　難波 健　三谷信之 北川 博巳　論文全般を担当
13.住民参加型の点検と助言に依る施設改善に関する研究-兵庫県におけるチェック&アドバイス制度を事例として-（その2）	共	2015年7月	日本福祉のまちづくり学会全国大会	兵庫県福祉のまちづくり条例のもとで運用される当事者参加制度の実践における、事例を分析し、傾向とこの制度の位置付けを明らかにする。 共著者：宮野順子　難波 健　三谷信之 北川 博巳　論文全般を担当
14.高齢者グループリビングの居住者の変遷と高齢化の対応-「グループハウスさくら」を通して-	共	2015年	2015年度 日本建築学会大会(関東) 学術講演梗概集	最長の運営履歴をもつ高齢者の共同居住事例「グループハウスさくら」において、居住者の変化を明らかにする。 共著者：宮野順子　高田光雄
15.2000年以前に開設されたグループリビングの運営組織の変遷	共	2014年8月	2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会梗概集	2000年以前に開設された高齢者グループリビング３事例について、運営組織の変遷を明らかにした。 共著者：宮野順子　高田光雄　論文全般を担当
16.堀川団地’やわらかい’まちづくり再生ビジョン その2	共	2012年8月	2012年度大会(東海)学術講演会梗概集	石田 洋輝,高田 光雄,安枝 英俊,生川 慶一郎,森重 幸子,土井 脩史,宮野 順子　調査と分析の一部を担当
17.堀川団地’やわらかい’まちづくり再生ビジョン その1	共	2012年	2012年度日本建築学会大会(東海)学術講演会梗概集	生川 慶一郎,高田 光雄,安枝 英俊,森重 幸子,土井 脩史,宮野 順子,石田 洋輝
18.堀川団地における法的側面からみる改修可能性の検討 ： 市街地型の公的住宅団地	共	2011年8月	2011年度 日本建築学会大会(関東) 学術講演梗概集	その４では、再生に向けた建築基準法、消防法における不適合を解消する方法を整理して示した。 共著者：宮野順子　森重幸子　髙田光雄　土井脩史　安枝英俊　桜

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の再生に関する研究 その4				井俊彦 生川慶一郎　論文全般を担当
19.堀川団地の再生におけるまちづくり協議会の設立と展開 ： 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その3	共	2011年8月	2011年度 日本建築学会大会(関東) 学術講演梗概集	その3ではまちづくり会社の設立に向けた動きを整理している。 共著者：生川慶一郎　土井脩史　髙田光雄　宮野順子　安枝英俊　桜井俊彦　森重幸子　　立案、考察の一部を担当
20.堀川団地再生に向けた検討課題の整理 ： 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その1	共	2010年8月	2010年度 日本建築学会大会(北陸) 学術講演梗概集	堀川団地を再生する際に、検討すべき項目を様々な観点から網羅的に研究を行う。宮野は、福祉施設の導入に向けた検討、既存躯体を生かした再生における法的側面を担当する。 その１では、複数抱える団地の課題と歴史について整理している。 共著者：垣田悠三子　髙田光雄　神吉紀世子　安枝英俊 土井脩史　森重幸子　宮野順子　岡本陽平　立案、考察の一部を担当
21.各住棟のキャパシティからみた堀川団地再生の方向性の検討 ： 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その2	共	2010年8月	2010年度 日本建築学会大会(北陸) 学術講演梗概集	その２では、団地の躯体をスケルトンと捉え、展開できる方向性について検討を行っている。 共著者：共著者： 土井脩史　髙田光雄　神吉紀世子　安枝英俊　垣田悠三子 森重幸子　宮野順子　岡本陽平　立案、考察の一部を担当
22.協同居住空間における個人間の距離調節についての考察	共	2009年8月	2009年度 日本建築学会大会(東北) 学術講演梗概集	協同居住空間における個人間の距離調節について、高齢者グループリビングについて、空間構成のあり方について検討した。 論文全体の執筆を担当 共著者:宮野順子,安枝英俊,高田光雄
23.親子・配偶関係を含まない同居の形態と住まい方 その2	共	2001年8月	2001年度 日本建築学会大会(関東) 学術講演梗概集	親子・配偶関係を含まない同居(シェアードハウジング)の27事例に対し、住み方調査、滞在時間調査、ヒアリング調査を行い、その実態を明らかにした。 　共用空間が使われ、その住み方が有効に機能しているのは、居住者の立場が対等なもの、非対等なものがあったが、いずれにせよ週に1回以上食事を共にするなど、居住者交流が保たれているものであった。 共著者：宮野 順子,重村 力,浅井 保,吉池 寿顕,駒井 陽次　　論文全般を担当
24.親子・配偶関係を含まない同居の形態と住まい方 その1	共	2001年8月	2001年度 日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集	親子・配偶関係を含まない同居(シェアードハウジング)の27事例に対し、住み方調査、滞在時間調査、ヒアリング調査を行い、その実態を明らかにした。 　共用空間が使われ、その住み方が有効に機能しているのは、居住者の立場が対等なもの、非対等なものがあったが、いずれにせよ週に1回以上食事を共にするなど、居住者交流が保たれているものであった。 共著者：宮野 順子,重村 力,浅井 保,吉池 寿顕,駒井 陽次　　論文全般を担当
25.高齢者の居住継続と近隣社会環境に関する研究 その1 ： 京都都心部の旧小学校区に着目して	共	2000年8月	2000年度 日本建築学会大会(東北) 学術講演梗概集	京都都心部　仁和学区における高齢者において、手段的支援、情緒的支援の受領先を調べ、近隣住民同士の相互支援が重要な位置をしめていることをしめす。 共著者：室崎千重　重村力　山崎寿一　宮野順子　立案、考察の一部を担当
26.高齢者の居住継続と近隣社会環境に関する研究 その2 ： 京都都心部の旧小学校区	共	2000年8月	2000年度 日本建築学会大会(東北) 学術講演梗概集	京都都心部　仁和学区における高齢者において、手段的支援、情緒的支援の受領先を調べ、近隣住民同士の相互支援が重要な位置をしめていることをしめす。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
に着目して				共著者：室崎千重　重村力　山崎寿一　宮野順子　立案、考察の一部を担当
27.友人グループ居住の可能性 ：「下宿屋バンク関西」の事例をとおして	共	1999年8月	1999年度 日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集	友人同士で住むことを「友人グループ居住」と名付け、これを目指す団体「下宿屋バンク関西」の会員に対するアンケート調査を行う 共著者：宮野順子　重村力　　論文全般を担当
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.生野区　障害者グループホーム新築工事		2015年～2017年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	大阪市生野区における新築障害者グループホームの設計・監理業務。基本計画、基本設計の一部を担当。木造２階建
2.福島区　シェアハウス新築工事	共	2015年～2017年	THNK一級建築士事務所 共同設計(主担当)	大阪市福島区における新築シェアハウスの設計・監理業務。基本計画、基本設計、実施設計を担当。
3.阿倍野区　マンションリノベーション工事	共	2015年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	大阪市阿倍野区におけるマンションリノベーションの設計・監理業務。基本計画、基本設計の一部を担当。
4.奈良県生駒市　住宅リノベーション工事	共	2014年	THNK一級建築士事務所 共同設計(主担当)	奈良県生駒市にある戸建住宅の一部リノベーションの設計・監理業務。基本計画、基本設計、実施設計を担当。木造２階建
5.大阪府吹田市　住宅リノベーション工事	共	2012年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	大阪府吹田市における戸建住宅の一部リノベーションの設計・監理業務。基本計画、基本設計、実施設計の一部を担当。鉄骨造２階建
6.奈良県大和郡山市カフェへのコンバージョン工事	共	2012年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	奈良県大和郡山市における住宅をカフェにコンバージョンを行う設計・監理業務。基本計画、基本設計の一部を担当。木造２階建
7.大阪府堺市　デイサービスへのコンバージョン工事	共	2012年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	大阪府堺市における住宅をデイサービスへコンバージョンを行う設計・監理業務。基本計画、基本設計の一部を担当。鉄筋コンクリート壁式構造２階建
8.兵庫県三田市　住宅リノベーション工事	共	2012年	THNK一級建築士事務所 共同設計(主担当)	兵庫県三田市にある戸建住宅の一部リノベーションの設計・監理業務。基本計画、基本設計、実施設計を担当。木造２階建
9.大阪市中央区　マンションリノベーション工事	共	2012年	THNK一級建築士事務所 共同設計(主担当)	大阪市中央区におけるマンションリノベーションの設計・監理業務。基本計画、基本設計、実施設計を担当。鉄筋コンクリート造14階建のうちの1フロア
10.ビッグカーサ堺しらさぎ駅前 現場監理時補助業務	共	2011年	遠藤剛生建築設計事務所	ビッグカーサ堺しらさぎ駅前 現場監理時補助業務
11.都市再生機構　既存団地魅力発見サイト「美団地」提案業務	共	2009年	遠藤剛生建築設計事務所	都市機構の既存団地の魅力を再発見、発信するweb siteのコンテンツ提案業務
12.クラスヒルズ東豊中　基本設計業務	共	2008年～2009年	遠藤剛生建築設計事務所	大阪府豊中市における民間分譲マンション462戸の基本設計業務。主に、住戸設計の主担当を担う。
13.大阪府堺市　小規模多機能福祉施設へのコンバージョン工事	共	2008年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	大阪府堺市における住宅を小規模多機能福祉施設へコンバージョンを行う設計・監理業務。基本計画、基本設計の一部を担当。木造２階建
14.鳥取県鳥取市　住宅新築工事	共	2008年	THNK一級建築士事務所 共同設計(副担当)	鳥取県鳥取市における住宅の設計・監理業務。基本設計の一部を担当。木造２階建
15.パークタウン西武庫 基本設計-実施設計	共	2004年～2005	遠藤剛生建築設計事務所	都市機構団地建替業務における基本設計、実施設計を担当。
16.高見フローラルタウン17号棟 実施設計	共	2003年	遠藤剛生建築設計事務所	都市機構団地新築の実施設計の業務を担当。
17.五月が丘　戸建て住宅地計画 基本設計	共	2002年	遠藤剛生建築設計事務所	大阪市豊中市における民間戸建て分譲住宅の基本設計業務
18.ルネサンクタスナシオンヒルズ 基本設計	共	2001年～2003	遠藤剛生建築設計事務所	兵庫県西宮市における民間分譲マンション154戸の基本設計-実施設計-現場監理におけるすべての業務を担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
-実施設計-現場監理（常駐）				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.コーポラティブハウス50周年記念イベント「こだわりと実践　都市居住の手段としてコーポラティブ」	共	2022年4月26日開催	NPOコーポラティブハウス全国推進協議会	日本でコーポラティブハウスが始まって50周年を記念した全６回のシンポジウムの第３回目のパネリストとして参加した。コーポラティブハウス「都住創」の設計者とともに、現状を調査研究している立場から、次世代への継承について報告および議論をおこなった。住総研実践助成の一環として、コーポラティブ住宅の良さを発信した。
2.上町台地　今昔フォーラムvol.13&14	単	2020年10月4日	主催：大阪ガスエネルギー・文化研究所(CEL)	上町台地　今昔フォーラムvol.13&14 イマジントーク 大阪の原点・上町台地から、ポストコロナの真の”レガシー”に迫る 災禍と祝祭を生きたモダン大阪の新星たちは、今、何を語ってくれるだろうか。 オンサイトコメンテーター
６．研究費の取得状況				
1.「コミュニティのある住まい」のネットワークを作る	共	2021年6月～2022年10月	一般財団法人 住総研 実践助成	研究者：宮野順子(代表),荒木公樹 助成金額：1,200千円 コーポラティブ住宅群　都住創をはじめとする居住者のコミュニティのある住まいの良さについて、媒体を作成し、発信する。例年開催される「生きた建築ミュージアムフェスティバル」における公開建物として参加し、ツアーを開催する。これらを通じて、居住者間の交流を図り、コーポラティブ住宅「都住創」の特徴を次世代への継承を促進させる。
2.「無届け老人ホーム」が示唆する課題の解明と新たな住まいの枠組みの提案	単	2019年4月1日～2022年3月	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 若手研究	3,770千円 本研究では「無届け老人ホーム」を社会ニーズに対する民間の自発的な応答と捉える視点から、単身高齢者の住まいの実態から、そのあり方を検討し、新たな枠組みを提案することを目的としている。
3.少子高齢化社会に対応した子育て支援住環境システムの構築と実装に関する研究	共	2017年4月1日～2021年3月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金(基盤研究(A))	研究者：高田光雄(研究代表者),宮野順子(分担研究者)他11名 助成金額：37,200千円 子育て支援住環境システムの構築として、既成市街地における調査研究を担当した。
4.都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における運営履歴の解明	共	2016年6月1日～2019年10月	一般財団法人　住総研: 2017年度研究助成	研究者：宮野順子(代表),荒木公樹 助成金額：1,000千円 大阪の都心部に立地する高経年コーポラティブ住宅群　都住創シリーズに着目し、登記簿調査と居住者へのヒアリング調査により運営履歴の解明した。
5.認知症高齢者グループホームにおける居住者間の相互作用に着目した環境デザインに関する研究	単	2016年4月1日～2019年3月	独立行政法人日本学術振興会 平成26年度 科学研究費補助金(若手研究(B))	助成金額：1,700千円 認知症高齢者グループホームにおける居住者間の相互作用に着目した環境デザインに関する研究を行った。
6.長期居住を可能にする中高年シェアハウスの運営システムに関する研究	単	2014年4月1日～2016年3月	独立行政法人日本学術振興会 平成26年度 科学研究費補助金(奨励研究)	助成金額：800千円 長期居住を可能にする中高年シェアハウスの運営システムに関する研究を行った。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2020年41月1日～現在	加古川市建築審査会
2.2020年1月1日～現在	尼崎市社会福祉施設等整備費補助金交付対象事業者選定委員会
3.2017年10月1日～2018年2月1日	枚方市駅周辺再整備基本計画アドバイザー選定委員
4.2016年4月1日～現在	尼崎市指定地域密着型サービス 事業者等選定委員会
5.2016年4月1日～2017年3月31日	兵庫県 県土整備部 住宅建築局 住宅政策課　住宅審議会委員
6.2013年4月1日～現在	日本福祉のまちづくり学会，　関西支部　理事
7.2009年7月1日～2011年3月1日	西宮市住宅マスタープラン検討委員会・作業部会
8.2009年4月1日～現在	都市住宅学会

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
9.2008年4月1日～現在	日本建築学会